



○ぶどうの生産国

☆世界ではワイン生産用が7割を占め非常に多いのに比べ、日本では生食用が9割を占め、ワイン、ジュース、菓子などの加工用は1割弱しかない。

☆年間約1,000,000トン余りが輸入されている

ワインやほろぶどうの原料になるため、世界中で多く生産されているブドウ科のつる性落葉低木の果実。

栽培の歴史は古く紀元前3000年頃には原産地であるコーカサス地方やカスプ海沿岸です。ヨーロッパの栽培が開始されていた。当初よりワインとの関連が深く、メソポタミア文明や古代エジプトにおいてワインは珍重されていた。古代ギリシアではワインのためのブドウ栽培が大々的に行われた。それほど昔からあったものなのだ。

ブドウにはヨーロッパぶどうと、北アメリカ、カナダで生まれたアメリカぶどうがあり、日本では1860年山梨県で栽培が始まったといわれている。現在、日本で栽培されているぶどうの多くはヨーロッパぶどうとアメリカぶどうの雑種で病気に強く、雨や寒さにも強い品種である。

ぶどう

新聞

発行者 佐藤 絵玲奈

世界のぶどう生産国

国	生産量 2009年 (トン)	※	生産量 2010年 (トン)	※	シェア 2010年 (%)
中華人民共和国	8,039,091		8,651,831		12.67%
イタリア	8,242,500		7,787,800		11.40%
アメリカ合衆国	6,629,160		6,220,360		9.11%
スペイン	5,573,400		6,107,200		8.94%
フランス	6,104,340		5,848,960		8.56%
トルコ	4,264,720		4,255,000		6.23%
チリ	2,500,000	(F)	2,755,700	(I)	4.03%
アルゼンチン	2,181,570		2,616,610		3.83%
インド	1,878,000		2,263,100	(I)	3.31%
イラン	2,255,670		2,255,670		3.30%
10か国統計	67,901,744	(A)	68,311,466	(A)	100%

※無印→公式データ
 (A)→5月データ、公式データ、半公式データ、推計を含む
 (F)→FAO推計
 (I)→理論に基づくFAOの推計

☆この10か国の合計で世界のぶどう生産量の71.38%を占めていて、この表の総計が世界の総生産量ではない。

☆世界のぶどう園の総面積は175,866haにのぼる。

☆世界のぶどう生産量のうち71%がワイン生産用、27%が生食用、2%がレーズン生産用に使われている。

○ぶどうの種類

- 巨峰 1945年に大井正康により開発された日本産の欧米雑種。大粒で味がいい。
- 巨峰オーネ 1973年に井原秀雄により開発された欧米雑種。巨峰よりひとまわり大きい。
- デラウェア 小粒だが味がよく、酸っぱい。主として乾果用。欧米雑種。巨峰よりひとまわり大きい。
- マスカーット・ハニブルック 1947年に新潟県の上野善兵衛により生み出されたアメリカ雑種。ベリーとマスカーット・ハニブルックの交雑種。

品種別の栽培総面積 (2010)

1位	巨峰 (5465ha)
2位	デラウェア (2967ha)
3位	巨峰オーネ (2430ha)
4位	キャンベルアーリー (655ha)
5位	ナイアガラ (513ha)
6位	マスカーット・ハニブルック (406ha)
7位	スカーレット (377ha)
8位	甲州 (316ha)

☆昭和44年ごろにはデラウェアが36%、キャンベルアーリーが26%、甲州が10%を占めていたが巨峰の栽培技術の発達や平成に入ってから巨峰オーネの栽培の拡大により順位がおちていった。デラウェアは昭和35年の無核化技術の開発により栽培が拡大したものの、近年では粒が小さいことから栽培が減少傾向にある。

○感想

私はぶどうの生産国についてよく調べたことと、ぶどうの品種の1つ1つについて、外国にたまたま生えているのは、ぶどうだけでなく、他の作物にもいろいろとあることと、日本の農業をもっと発展させていく必要があること、ぶどうの栽培はアメリカからヨーロッパ、南アメリカまでは行われていること、ぶどうの栽培のイメージはなかなかたからず、また機会があれば、ぶどうの果物のことも、もっとくわしく知ってみたいと思います。